

国立民族学博物館 特別研究「コロナ禍に対するローカルな対処としての『文化の免疫系』に関する比較研究」

日本万国博覧会記念公園シンポジウム2022

人類よ、どこへ行く？

ポストコロナの世界を占う

Quo vadis, homini?

2022

10/29 (土) 13:30-16:30 (開場13:00)

会場 国立民族学博物館 みんなくインテリジェントホール(講堂)

定員 200名(要事前申込・先着順)

参加費 無料(要展示観覧券)

オンライン(ライブ配信)あり。申込不要。
みんなくホームページより無料でご視聴いただけます。



※新型コロナウイルス感染症の状況により、イベントの内容を変更または中止する場合がございます。
あらかじめご了承ください。

プログラム

第1部 コロナ禍のなかを生きる

第2部 コロナ禍の意味するもの

パネルディスカッション

登壇者

齋藤 環

朝野 和典

山中 由里子

中島 隆博

吉田 憲司

島村 一平

筑波大学教授

大阪健康安全基盤研究所理事長、大阪大学名誉教授

国立民族学博物館教授

東京大学東洋文化研究所教授

国立民族学博物館長

国立民族学博物館准教授



日本万国博覧会記念公園シンポジウム2022

人類よ、どこへ行く？

ポストコロナの世界を占う

Quo vadis, homini?

2022
10/29(土) 13:30-16:30(開場13:00)

国立民族学博物館 みんぱくインテリジェントホール(講堂)

プログラム

- 13:30 挨拶
中牧 弘允 千里文化財団理事長
- 13:40 シンポジウム開催にあたって
吉田 憲司 国立民族学博物館長
- 第1部 コロナ禍のなかを生きる**
- 14:00 講演1「コロナ禍が変えた精神風景」
齋藤 環 筑波大学教授
- 14:20 講演2「社会の疾病としてのCOVID-19」
朝野 和典 大阪健康安全基盤研究所理事長、大阪大学名誉教授
- 第2部 コロナ禍の意味するもの**
- 14:40 講演3「抗体としてのモンスター
——表象の疫学から解くアマビエ現象」
山中 由里子 国立民族学博物館教授
- 15:00 講演4「哲学からみたコロナ禍の意味」
中島 隆博 東京大学東洋文化研究所教授
- 15:20 休憩
- 15:30 **パネルディスカッション**
パネリスト 齋藤 環、朝野 和典、山中 由里子、
中島 隆博、吉田 憲司
ファシリテーター 島村 一平
- 16:30 閉幕

参加方法

- 会場参加 | 定員200名 | 要事前申込 | 先着順 |
・参加費: 無料(要展示観覧券)
・申込受付期間: 2022年9月5日(月)~10月21日(金)
※定員になり次第受付終了。手話通訳が必要な方は、9月30日(金)までにお申し込みいただき、その旨お知らせください。
- オンライン(ライブ配信) | 予約不要 |
当日、みんぱくホームページより無料でご視聴いただけます。

申込方法

会場参加に限り事前申込が必要です。
■オンラインでのお申込み
イベント予約サイトよりお申し込みください。
<https://onl.bz/2f5ArrT>



電話でのお申込み

- ①イベント名 ②代表者氏名(漢字、ふりがな) ③参加人数(代表者を含む2名様まで)
- ④電話番号(代表者のみ)をお知らせください。

お申し込み・お問合せ 公益財団法人 千里文化財団
TEL: 06-6877-8893(土日を除く9:00-17:00)
email: sympo@senri-f.or.jp

新型コロナウイルス感染症はまたたく間にしてグローバルに広がり、いまま人類社会に甚大な影響を及ぼしています。社会に潜在していたさまざまな差別意識や矛盾が顕在化するなか、人類が近代に入って作りあげてきた制度や規範の意義と存在理由が、改めて問われています。万博記念公園と国立民族学博物館が協働しておこなうシンポジウムの2年目にあたる本企画では、精神医療、医療、比較文学比較文化、哲学など、各分野の第一線で活躍する研究者が議論を交わし、コロナ禍以降の世界像を描きます。

登壇者プロフィール



齋藤 環 saito tamaki

筑波大学教授。専門は思春期・青年期の精神病理学。「社会的ひきこもり」の治療・支援ならびに啓発活動をおこなう。『コロナ・アンビバレンスの憂鬱——健やかにひきこもるために』(晶文社)、『オープンダイアログとは何か』(医学書院)など著書、論考多数。



朝野 和典 tomono kazunori

大阪健康安全基盤研究所理事長、大阪大学名誉教授。専門は感染症学、感染制御学。大阪大学在籍時には院内感染対策、感染症の診断や治療に従事。内閣府の新型インフルエンザ対策、大阪府の新型コロナウイルス対策に助言するなど感染症対策に携わる。著書、論考多数。



山中 由里子 yamanaka yuriko

国立民族学博物館教授。専門は比較文学比較文化。中世イスラーム世界におけるアレクサンドロス伝承、驚異と怪異の比較研究に従事。『驚異と怪異——想像界の生きものたち』(河出書房新社)、『〈驚異〉の文化史——中東とヨーロッパを中心に』(名古屋大学出版会)など著書、論考多数。



中島 隆博 nakajima takahiro

東京大学東洋文化研究所教授。専門は中国哲学、世界哲学。西洋哲学との対話を通じた中国哲学の再読、日本哲学や中国哲学を世界哲学として普遍化する研究をおこなう。『中国哲学史——諸子百家から朱子学、現代の新儒家まで』(中央公論新社)、『危機の時代の哲学——想像力のディスクール』(東京大学出版会)など著書、論考多数。



吉田 憲司 yoshida kenji

国立民族学博物館長。専門は博物館人類学、アフリカ研究。仮面結社と憑依現象、美術館・博物館における文化表象について調査をおこなう。『仮面の世界をさぐる——アフリカとミュージアムの往還』(臨川書店)、『文化の「発見」——驚異の部屋からヴァーチャル・ミュージアムまで』(岩波書店)など著書、論考多数。



島村 一平 shimamura ippei

国立民族学博物館准教授。専門は文化人類学、モンゴル研究。モンゴルにおける宗教実践、モンゴル・ヒップホップカルチャーについて調査をおこなう。『憑依と抵抗——現代モンゴルにおける宗教とナショナリズム』(晶文社)、『ヒップホップ・モンゴリア——韻がつむぐ人類学』(青土社)など著書、論考多数。

ご来館のみなさまへ

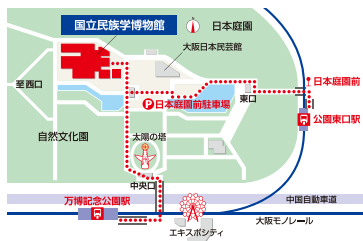
新型コロナウイルス感染症の状況によっては、会期・イベント等を変更・中止する場合があります。事前にホームページでご確認ください。

ご利用案内

- 開館時間…………… 10:00~17:00(入館は16:30まで)
 - 休館日…………… 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)
 - 観覧料…………… 一般580円/大学生250円/高校生以下 無料
- ※特別展示観覧料、観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

交通のご案内

- 大阪モノレール…「万博記念公園駅」、「公園東口駅」下車徒歩約15分
 - バス…………… 阪急茨木市駅・JR 茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約13分
 - 乗用車…………… 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分
- ※大学生・一般の方は万博記念公園各ゲートで、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。
※高校生以下の方、「国立民族学博物館友の会」会員の方は万博記念公園各ゲート有人窓口で、みんぱくへ行くこととお申し出いただき、通行証をお受け取りください。
※万博記念公園をご利用になる場合は、同園入園料が必要です。



〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
研究協力課 国際協力係
TEL:06-6878-8235
FAX:06-6878-8479
<https://www.minpaku.ac.jp/>